

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月27日
【事業年度】	第82期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)
【会社名】	株式会社チノ
【英訳名】	Chino Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 豊田 三喜男
【本店の所在の場所】	東京都板橋区熊野町32番8号
【電話番号】	東京03(3956)2111(大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部長兼社長室長 大森 一正
【最寄りの連絡場所】	東京都板橋区熊野町32番8号
【電話番号】	東京03(3956)2111(大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部長兼社長室長 大森 一正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	16,784,895	19,677,484	19,496,006	18,569,986	20,745,022
経常利益 (千円)	568,702	896,440	665,968	637,779	1,368,219
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	334,007	395,337	303,471	373,513	832,810
包括利益 (千円)	611,910	968,203	31,679	514,916	1,285,342
純資産額 (千円)	13,945,341	14,767,683	14,424,790	14,456,587	15,360,332
総資産額 (千円)	22,346,510	25,530,752	23,946,972	24,229,656	26,396,983
1株当たり純資産額 (円)	1,538.20	1,609.14	1,577.72	1,596.00	1,703.64
1株当たり当期純利益金額 (円)	39.31	46.20	35.39	43.62	98.25
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	58.7	54.1	56.5	56.0	54.7
自己資本利益率 (%)	2.5	2.9	2.2	2.8	5.9
株価収益率 (倍)	27.99	25.89	-	28.12	15.03
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	431,746	1,363,372	1,956,192	840,173	2,814,377
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,452,083	2,650,809	693,205	244,049	729,169
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	558,985	979,231	1,043,840	141,153	1,080,654
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,226,117	3,249,631	3,403,994	3,843,936	4,855,401
従業員数 (人)	942	996	994	999	985
〔外、平均臨時雇用者数〕	〔106〕	〔110〕	〔111〕	〔114〕	〔106〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は平成26年8月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株の割合で株式併合を行いました。第78期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	14,520,556	16,221,865	15,586,648	14,303,926	16,184,244
経常利益 (千円)	387,711	477,426	574,596	517,674	1,177,257
当期純利益 (千円)	272,698	493,144	34,730	376,365	858,846
資本金 (千円)	4,292,027	4,292,027	4,292,027	4,292,027	4,292,027
発行済株式総数 (株)	47,800,580	9,560,116	9,560,116	9,560,116	9,260,116
純資産額 (千円)	12,413,104	12,899,443	12,496,241	12,558,535	13,409,475
総資産額 (千円)	19,969,270	21,884,699	20,689,378	20,845,136	22,545,453
1株当たり純資産額 (円)	1,455.25	1,504.02	1,457.30	1,476.43	1,582.66
1株当たり配当額 (円)	7.00	35.00	40.00	35.00	40.00
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	32.10	57.63	4.05	43.95	101.32
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.2	58.9	60.4	60.3	59.5
自己資本利益率 (%)	2.2	3.8	0.3	3.0	6.6
株価収益率 (倍)	34.27	20.75	254.80	28.10	14.58
配当性向 (%)	109.0	60.7	987.7	79.6	39.5
従業員数 (人)	649	663	653	658	651
〔外、平均臨時雇用者数〕	〔93〕	〔93〕	〔94〕	〔97〕	〔91〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は平成26年8月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株の割合で株式併合を行いました。第78期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり配当額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2【沿革】

年月	概況
大正2年3月	千野一雄個人の経営で東京下谷に千野製作所の商号をもって理化学器械、電気器械の製造販売を創業する。
昭和11年8月	千野製作所を株式会社とし商号を株式会社千野製作所（現株式会社チノー）とするとともに本店を東京都板橋区板橋町（現在の熊野町）に置く。
昭和37年4月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
昭和38年4月	群馬県藤岡市に藤岡工場を新設。
昭和39年5月	本店所在地を「東京都板橋区熊野町32番地」から「東京都豊島区西池袋一丁目22番8号」に移転し、同所は板橋工場（現本社・研究所）として生産を続行。
昭和52年5月	製造子会社「千幸電機株式会社（現㈱チノーソフテックス）」（現連結子会社）を設立。
昭和53年6月	埼玉県久喜市に久喜工場を新設。
昭和53年6月	本店所在地を「東京都新宿区西新宿一丁目26番2号」に移転する。
昭和54年9月	当社株式につき東京証券取引所市場第一部銘柄に指定替される。
昭和56年7月	東京営業所を東京支店に、大阪営業所を大阪支店に改組。
昭和58年1月	米国カリフォルニア州ロスアンゼルス市に販売子会社「CHINO Works America Inc.」（現連結子会社）を設立。
昭和61年10月	商号を「株式会社千野製作所」から「株式会社チノー」に変更する。
昭和63年6月	名古屋営業所を名古屋支店に改組。
平成元年6月	韓国儀旺市に合弁会社「韓国チノー株式会社」（現連結子会社）を設立。
平成2年8月	新社屋完成により本店所在地を「東京都板橋区熊野町32番8号」に移転する。
平成3年10月	大宮営業所を北部支店に改組。
平成4年2月	製造子会社「株式会社山形チノー」を設立。
平成5年3月	サービス子会社「株式会社チノーサービス」を設立。
平成5年12月	中国上海市に合弁会社「上海大華 - 千野儀表有限公司」（現連結子会社）を設立。
平成8年7月	インドダマン市に合弁会社「CHINO - LAXSONS (I) Private Limited（現CHINO Corporation India Private Limited）」（現連結子会社）を設立。
平成10年11月	「三基計装株式会社」（現連結子会社）の全株式を取得、子会社とする。
平成15年8月	中国江蘇省昆山市に合弁会社「千野測控設備（昆山）有限公司」（現連結子会社）を設立。
平成18年9月	「東京精工株式会社」及び「株式会社浅川レンズ製作所」（現連結子会社）の全株式を取得、子会社とする。
平成21年1月	「CHINO - LAXSONS (I) Private Limited（現CHINO Corporation India Private Limited）」（現連結子会社）の株式を追加取得し、100%子会社とする。
平成22年2月	「アーズ株式会社」（現連結子会社）の株式を取得、子会社とする。
平成23年10月	連結子会社の「東京精工株式会社」を吸収合併する。
平成24年4月	連結子会社の「株式会社山形チノー」を吸収合併する。
平成24年10月	タイバンコク都に販売子会社「CHINO Corporation (Thailand) Limited」（現連結子会社）を設立。
平成26年12月	「アドバンス理工株式会社」（現連結子会社）の全株式を取得、子会社とする。
平成27年1月	連結子会社の「株式会社チノーサービス」を吸収合併する。
平成28年4月	東京支店、北部支店を統合し、東日本支店に改組。
平成30年2月	技術開発センターをイノベーションセンターに改組。

3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社11社によって構成されており、当社グループが営んでいる主な事業内容と各関係会社等の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

(1) 計測制御機器

国内では、当社が製造、販売しております。

海外では、米国で CHINO Works America Inc.（連結子会社）、中国で上海大華 - 千野儀表有限公司（連結子会社）、タイで CHINO Coporation (Thailand) Limited（連結子会社）が当社からの購入品を販売し、韓国で韓国チノー(株)（連結子会社）、インドで CHINO Corporation India Private Limited（連結子会社）が自社生産品のほかに当社からの購入品を販売しております。また、中国では千野測控設備（昆山）有限公司（連結子会社）が、当社及び上海大華 - 千野儀表有限公司に自社生産品を販売しております。

(2) 計装システム

当社、三基計装(株)（連結子会社）及びアドバンス理工(株)（連結子会社）が製造、販売しております。

また、海外では韓国で韓国チノー(株)が、中国で千野測控設備（昆山）有限公司が製造、販売しております。

(3) センサ

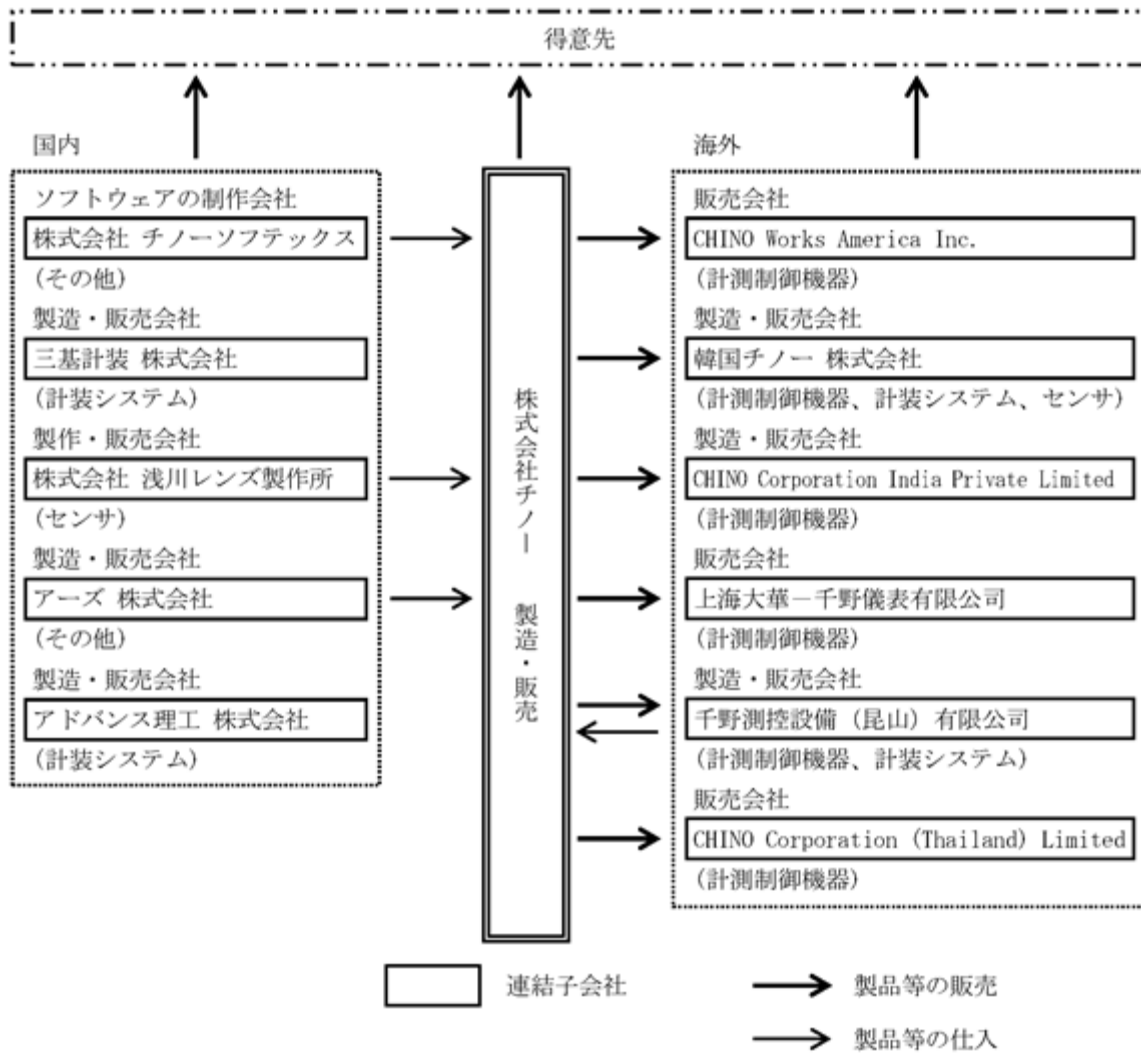
国内では、当社が製造、販売しております。また、(株)浅川レンズ製作所（連結子会社）が光学部品を製作、当社にセンサ用光学部品を販売するほか直接販売もしております。海外では韓国で韓国チノー(株)が当社からの購入品を販売しております。

(4) その他

当社が、修理及びメンテナンスならびに計測制御機器、センサ等の消耗品を販売し、(株)チノーソフトテックス（連結子会社）が当社製品のソフトウェアを制作し、当社に販売しております。

また、アーズ(株)が無線技術を活用したセンサモジュールの販売や受託開発を行っております。

以上に述べました事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容		
					営業上 の取引	資金援助	設備の 賃貸借
(株)チノーソフテックス	群馬県藤岡市	30,000	その他(ソフト ウェア関連)	100	ソフトウェア の制作委託	-	当社建物の賃貸
三基計装(株)	埼玉県久喜市	35,000	計装システム	100	-	運転資金の 貸付	当社建物の賃貸
(株)浅川レンズ製作所	埼玉県久喜市	10,000	センサ	100	同社製品の購 入	運転資金の 貸付	当社建物の賃貸
アーズ(株)	神奈川県横浜市 神奈川区	68,000	その他(センサ ネットワーク製品 開発・販売関連)	81	-	-	-
アドバンス理工(株)	神奈川県横浜市 都筑区	310,000	計装システム	100	-	-	-
CHINO Works America Inc.	アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロスアンゼルス市	千ドル 500	計測制御機器	100	当社製品の販 売	運転資金の 貸付	-
上海大華 - 千野儀表有 限公司 (注) 2	中華人民共和国 上海市	千元 11,610	計測制御機器	50	当社製品の販 売	-	-
千野測控設備(昆山) 有限公司	中華人民共和国 江蘇省昆山市	千元 13,242	計測制御機器及び 計装システム	80	同社製品の購 入	運転資金の 貸付	-
韓国チノー(株)(注) 2	大韓民国 京畿道華城市	千ウォン 600,000	計測制御機器、計 装システム及びセ ンサ	50	当社製品の販 売	-	-
CHINO Corporation India Private Limited	インド共和国 ナビムンバイ市	千ルピー 125,818	計測制御機器	100	当社製品の販 売	運転資金の 貸付	-
CHINO Corporation (Thailand)Limited (注) 2	タイ王国 バンコク都	千バーツ 7,000	計測制御機器、セ ンサ及びサービス	49	当社製品の販 売・修理	-	-

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 持分は、100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。
3 上記子会社は有価証券届出書または有価証券報告書を提出していません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
計測制御機器	366 (67)
計装システム	186 (-)
センサ	150 (32)
その他	61 (1)
全社(共通)	222 (6)
合計	985 (106)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2 全社(共通)には営業人員数として156人を含んでおります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
651 (91)	40.9	15.4	5,647,598

セグメントの名称	従業員数(人)
計測制御機器	182 (57)
計装システム	87 (-)
センサ	139 (28)
その他	21 (-)
全社(共通)	222 (6)
合計	651 (91)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合はチノー労働組合と称し、提出会社の本社に当組合本部が、各拠点に支部がおかれ、現在上部団体には属していません。

平成30年3月31日現在の組合員数は512人です。

労使間の諸問題については、常設協議機関として労使協議会を設け、労使協議制を基本とした円滑な運営を図っております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1)経営方針

当社グループは、「特長・信頼・連帯」を基本理念に掲げ、計測・制御・監視の領域を軸とする独創性のある技術を追求してまいりました。

この基本理念に基づき、グループの戦略的方向性統一のため、経営ビジョンとして温度ソリューションにおいて、グローバルナンバーワンを目指す、現場に密着したエンジニアリング活動により、顧客に感動される企業を目指す、すべてのステークホルダーを尊重し、企業価値の向上と持続的成長を目指す、の3項目を定めました。

「温度のチノー」として、株主、お客様、取引先、従業員、社会などあらゆるステークホルダーの信頼を得るとともに、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

(2)中長期的な会社の経営戦略及び目標とする経営指標

当期の当社グループを取り巻く経営環境は、台頭する保護主義や地政学リスクの高まりなど不透明感が生じましたが、わが国経済は、雇用や所得の改善などにより、総じて緩やかな景気拡大が続きました。

このような状況の下、当社グループは温度を軸とした計測・制御・監視技術を生かし、「温度のチノー」としてのブランドを確固たるものにすべく、次の3点を中長期の経営方針と定めました。

- ・成長分野(半導体・電子部品、二次電池、先端素材、医療医薬管理等)に向けた温度ソリューションの開発による、新たな収益源の確保。
- ・金属熱処理等の基盤分野における、現場密着型のエンジニアリング活動による安定した収益源の確保。
- ・業績伸展を支える経営基盤の強化。

以上の取組みを通じ、2020年度をゴールとする中期経営計画における数値目標である「連結売上高240億円」、「売上高営業利益率7%以上」の達成を目指します。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループといたしましては、先に発表した2020年度をゴールとする新たな中期経営計画に基づき、経営ビジョンの実現に向け、持続的な成長軌道の構築と企業価値の向上に努めてまいります。

中期経営計画の初年度にあたる平成31年3月期の主な基本方針は次のとおりです。

経営環境が大きく変化中、半導体・電子部品、二次電池、先端素材、医療医薬管理市場等を成長分野と捉え、開発から提案までの攻めの活動を展開するとともに中長期的発展の基盤を構築する

営業部門が市場動向を的確に把握し、生販開一体で既存顧客の維持・深耕(個社戦略)と新規顧客の創造を促進する組織的な活動を展開する

事業戦略の遂行を支える経営基盤のより強固な確立を目的に、人財・組織力・ガバナンスを中心に整備と強化を進める

海外事業は、国・エリア毎のターゲット市場・顧客を明確化して経済状況および今後の成長性に応じた販売・サービス・生産体制の整備を進め、海外売上比率の向上を図る

2【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1)景気の悪化による影響

当社グループは温度を中心とする計測と制御の専門企業集団として、様々な業種に商品を提供しておりますが、売上高全体の80%弱は製造業が占めております。また、当社グループの商品は国内販売比率が高く、主として設備投資関連や研究開発向けであるため、景気の悪化により、製造業の設備投資が著しく落ち込みますと、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 外国為替の変動による影響

当社グループは、海外への売上高比率を高めるべく、諸施策を遂行しております。輸出の為替リスクを回避するため円建て取引を原則としておりますが、一部外貨建輸出もあり、その場合は先物為替予約等によって為替リスクヘッジを行うなど為替変動の影響を最小限にとどめるよう努めております。しかしながら、大幅な為替変動（円高）は価格競争力を低下させ、また海外の連結子会社の財務諸表を円換算して連結財務諸表を作成しておりますので、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度のわが国経済は、好調な企業収益を背景に企業の成長分野に対する設備投資が本格化するなか、緩やかな回復基調で推移しました。海外経済については、地政学的リスク要素は一部で残るものの、米国では雇用拡大や所得環境の改善により景気拡大が持続し、欧州や中国においても景気が堅調であり、比較的安定した成長が続きました。

このような環境の下、当連結会計年度の連結業績につきましては、年間を通じ好調に推移し、受注高は21,628百万円（前期比17.4%増）、売上高は20,745百万円（前期比11.7%増）となりました。このうち国内売上高は16,608百万円（前期比11.3%増）、海外売上高は4,136百万円（前期比13.3%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に加えて収益性拡大等に向けた取り組みの効果により、営業利益は1,303百万円（前期比130.2%増）、経常利益は1,368百万円（前期比114.5%増）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は832百万円（前期比123.0%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

計測制御機器

売上高は7,275百万円（前期比1.9%増）、セグメント利益（営業利益）は1,160百万円（前年同期比7.2%増）となりました。熱処理向け記録計、調節計およびサイリスタレギュレータが総じて好調でした。具体的には、国内では航空機部品の熱処理用真空炉向けおよび電子部品製造装置向け調節計、サイリスタレギュレータが好調で、海外では欧州および中国における熱処理向け記録計が堅調に推移しました。

計装システム

売上高は8,168百万円（前年同期比27.1%増）、セグメント利益（営業利益）は847百万円（前年同期比136.2%増）となりました。当セグメントの売上増大および案件管理の強化による原価率の大幅改善が、全社の利益拡大を牽引しました。売上先の主な業種は、自動車、電子部品、半導体、ケミカル、家電等であり、国内では特に自動車関連の燃料電池評価試験装置の売上が大きく増加した他、電子部品焼成炉制御盤についても高水準で推移しました。海外では、欧州におけるカーエアコン用試験装置および中国等におけるケミカル向け成分計が好調でした。また、医薬品等の温湿度監視システムの案件も増加しており、顧客対応力の一層の強化を目指し、昨年12月1日付けでライフサイエンス事業部を発足しました。

センサ

売上高は4,508百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益（営業利益）は765百万円（前年同期比15.4%増）となりました。分野別では、半導体関連、鉄鋼関連、エネルギー関連および農事向けが堅調でした。具体的には、国内の半導体製造工程における温度制御用の放射温度計、製鋼所における監視用の熱画像計測装置および農事用サイロケーブルの販売が伸び、海外では中国における半導体製造工程、金属熱処理工程向けの放射温度計が好調でした。

その他

売上高は792百万円（前年同四半期比31.8%増）で、セグメント利益（営業利益）は136百万円（前年同四半期比42.4%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益1,374百万円、減価償却費810百万円等のプラスに対し、たな卸資産の増加22百万円、法人税等の支払額259百万円等のマイナスの結果、収支は2,814百万円のプラス（前連結会計年度は840百万円のプラス）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得391百万円及び無形固定資産の取得97百万円等の資金流出があり729百万円のマイナス（前連結会計年度は244百万円のマイナス）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減少322百万円および配当金の支払298百万円等により1,080百万円のマイナス（前連結会計年度は141百万円のマイナス）となっております。

これらの結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は前連結会計年度末に比べ1,011百万円増加し、4,855百万円となりました。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前期比(%)
計測制御機器	5,676,410	+ 1.9
計装システム	7,802,168	+ 29.1
センサ	3,701,254	+ 3.6
その他	467,809	+ 9.2
合計	17,647,643	+ 13.0

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は、見込販売価額で示しております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注状況

当連結会計年度における受注状況は、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前期比(%)
計測制御機器	7,647,537	+ 8.0
計装システム	8,741,781	+ 39.8
センサ	4,518,889	+ 1.3
その他	720,548	+ 14.4
合計	21,628,756	+ 17.4

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前期比(%)
計測制御機器	7,275,258	+ 1.9
計装システム	8,168,684	+ 27.1
センサ	4,508,205	+ 2.4
その他	792,874	+ 31.8
合計	20,745,022	+ 11.7

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表の作成にあたり、連結会計年度末における資産、負債の金額、及び連結会計期間における収益、費用の金額に影響を与える重要な会計方針及び各種引当金等の見積り方法（計上基準）につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度の経営成績等は、以下のとおりであります。

当社グループでは3つの経営ビジョン

- ・温度ソリューションにおいて、グローバルナンバーワンを目指す
- ・現場に密着したエンジニアリング活動により、顧客に感動される企業を目指す
- ・すべてのステークホルダーを尊重し、企業価値の向上と持続的成長を目指す

を掲げ、安定・確実な成長と優れた価値の創出を目標に事業活動を展開してまいりました。

また、中長期的な要素技術と新技術開発の体制強化を目的に平成30年2月1日付でイノベーションセンターを設置し、成長市場において有用なソリューションを提供する技術として、赤外線応用計測システム、電気加熱システム、温湿度センサ、広域無線システム、IoTシステム、試験・検査システム、予防保全監視システムに関わる開発を進めてまいります。

経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

(営業利益)

売上原価は、14,166百万円と前連結会計年度より1,336百万円増加、売上原価率は68.3%と0.8ポイント減となりました。また、販売費及び一般管理費は前連結会計年度より101百万円増加し、5,275百万円となりました。

その結果、営業利益は1,303百万円と前連結会計年度に比べ130.2%の増益となり、売上高営業利益率は6.3%と前連結会計年度より3.3ポイント増加しました。

(経常利益)

営業外収益につきましては、155百万円と前連結会計年度に比べ6百万円増加しました。主な要因は受取配当金の増加によるものです。

営業外費用につきましては、90百万円と前連結会計年度に比べ13百万円増加しました。主な要因は為替差損の増加によるものです。

これらの結果、経常利益は1,368百万円と前連結会計年度に比べ114.5%の増益となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

固定資産売却益26百万円等の特別利益、固定資産処分損11百万円等の特別損失があり、税金等調整前当期純利益は1,374百万円と前連結会計年度に比べ112.9%の増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、832百万円と前連結会計年度比123.0%の増益となりました。

経営戦略の現状と見通し

産業構造の変化とグローバルな競争の激化がますます強まっております。これらの状況に対処して、当社グループは相互に連携して環境、食品、物流、安全などの市場開拓に注力しております。また、これに伴い、新しい発想による適合商品の開発、他社商品の活用などにも積極的に取り組んでおります。一方、グローバル化の進展については、海外事業を強化するとともに生産事業所と連携し、国際市場に通用する商品の拡充、海外販売力の強化を図り、変貌する需要に応えてまいります。

財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,167百万円増加し、26,396百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2,070百万円増加し、18,057百万円となりました。主な増減は、現金及び預金の増加1,011百万円、受取手形及び売掛金の増加986百万円であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ96百万円増加し、8,339百万円となりました。このうち有形固定資産は190百万円の減少となりました。投資その他の資産は投資有価証券の増加682百万円、繰延税金資産の減少168百万円等により3,266百万円となりました。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,263百万円増加し、11,036百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,592百万円増加し、8,342百万円となりました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ329百万円減少し、2,694百万円となりました。

(非支配株主持分)

連結子会社のアーズ(株)、上海大華 - 千野儀表有限公司、千野測控設備(昆山)有限公司、韓国チノー株式会社及びCHINO Coporation (Thailand)Limitedの非支配株主持分であります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は15,360百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益による増加832百万円、その他有価証券評価差額金の増加333百万円、剰余金の配当297百万円による減少等の結果であります。

キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性につきましては、次のとおりです。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、材料の仕入のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金を基本とし、必要に応じて金融機関からの短期借入により調達することにしており、設備投資や長期運転資金につきましては、自己資金を基本とし、必要に応じて金融機関からの長期借入により調達することにしております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債の残高は2,295百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は4,855百万円となっております。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）の研究開発体制は、「イノベーションセンター」を中心に、計測・制御の基礎開発、応用技術の開発を行うとともに、グループの開発部門と連携し、市場ニーズに対応したカスタム商品の開発を行っております。また「機器開発センター」では「イノベーションセンター」の要素技術をベースに機器商品の開発を行うとともに、ユニットの共通化によるVA開発も進めております。

なお、「山形事業所」の開発部門においては、センサ素子の開発を行うとともに、そのセンサ素子を応用した民生機器商品の開発を行っております。

これらの活動により、当社グループにおける当連結会計年度の研究開発費の総額は、963百万円となります。

セグメントごとの研究開発費は、『計測制御機器』は696百万円、『計装システム』は100百万円、『センサ』は167百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度における設備投資は、新商品開発、生産設備ならびに環境整備関連を中心に無形固定資産も含め総額452,569千円であり、セグメントごとの設備投資につきましては、計測制御機器161,079千円、計装システム63,763千円、センサ99,359千円、その他18,242千円、全社共通110,124千円であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
藤岡事業所 (群馬県藤岡市)	計測制御機器 計装システム	生産設備	810,824	76,325	150,321 (49,770)	55,119	1,092,590	173 (20)
久喜事業所 (埼玉県久喜市)	センサ	生産設備	277,896	95,657	199,833 (15,080)	46,341	619,728	114 (28)
山形事業所 (山形県天童市)	計測制御機器 センサ	生産設備	750,671	253,970	464,524 (39,726)	46,588	1,515,755	98 (37)
本社・イノベーションセンター (東京都板橋区)	-	研究設備 その他	548,720	11,380	90,061 (3,592)	63,553	713,717	117 (2)

(注) 1 帳簿価額「その他」は、工具、器具及び備品ならびに建設仮勘定の合計であります。

2 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 国内子会社

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) 在外子会社

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループにおける設備投資は、提出会社を中心にグループとして重複投資とならないよう相互に調整を図りつつ各社が個別に計画、実施しております。当連結会計年度の設備の新設、改修等に係る所要資金については自己資金により充当する予定であります。重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

(1) 新設

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備内容	予算額 (千円)	既支払額 (千円)	資金調達方法
提出会社 藤岡事業所 (群馬県藤岡市)	計測制御機器 計装システム	生産設備・事業所改修・開発 関連等	243,000	-	自己資金
提出会社 久喜事業所 (埼玉県久喜市)	センサ	生産設備・事業所改修・開発 関連等	181,000	-	自己資金
提出会社 山形事業所 (山形県天童市)	計測制御機器 センサ	生産設備・事業所改修・開発 関連等	114,000	-	自己資金
提出会社 本社 (東京都板橋区)	-	社屋改修・研究開発関連等	259,000	-	自己資金

(注) 完成後の生産能力には大きな変動はありません。

(2) 除却等

生産能力に重要な影響を与える設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,820,000
計	23,820,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,260,116	9,260,116	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であり ます。
計	9,260,116	9,260,116	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月31日	300	9,260	-	4,292,027	-	4,017,909

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(5)【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	25	26	123	58	1	4,226	4,459	-
所有株式数 (単元)	-	19,484	1,074	14,062	4,869	2	52,551	92,042	55,916
所有株式数の割 合(%)	-	21.17	1.17	15.28	5.29	0.00	57.09	100.00	-

(注) 自己株式787,360株は、「個人その他」に7,873単元、「単元未満株式の状況」に60株含めて記載してあります。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
チノー取引先持株会	東京都板橋区熊野町3-2-8号	971	11.46
チノー従業員持株会	東京都板橋区熊野町3-2-8号	396	4.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	359	4.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	338	4.00
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2番1号	260	3.06
株式会社ニッカトー	大阪府堺市堺区遠里小野町3丁目2番24号	207	2.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	202	2.38
株式会社北浜製作所	大阪府大阪市中央区船越町2丁目1番6号	182	2.15
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	160	1.88
株式会社共和電業	東京都調布市調布ヶ丘3丁目5番1号	140	1.65
計	-	3,218	37.98

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 787,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,416,900	84,169	-
単元未満株式	普通株式 55,916	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,260,116	-	-
総株主の議決権	-	84,169	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式60株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社チノー	東京都板橋区熊野町32番8号	787,300	-	787,300	8.50
計	-	787,300	-	787,300	8.50

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

会社法165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定にもとづく取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年12月9日)での決議状況 (取得期間 平成28年12月14日～平成29年5月31日)	100,000	130,000,000
当事業年度前における取得自己株式	67,900	81,441,300
当事業年度における取得自己株式	32,100	38,733,200
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,149	1,707
当期間における取得自己株式	106	157

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	300,000	439,656	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転 を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(株式併合による減少等)	-	-	-	-
保有自己株式数	787,360	-	787,466	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の方々に対する利益還元を経営の最重要政策として位置付けております。配当につきましては、1事業年度の配当回数は中間配当と期末配当の年2回を基本としておりますが、実施にあたっては収益状況や配当性向の向上を勘案して都度決定する方針を採っております。

当社は会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨定めております。

当期の剰余金の配当につきましては、1株につき40円とさせていただきます。

内部留保資金につきましては、研究開発活動や新技術・新商品開発投資及び新規事業など将来の企業価値を高めるための投資資金として有効活用するほか、自己株式の取得も弾力的に行って、1株当たりの利益や自己資本利益率を向上させてまいります。

(注) 基準日が当事業年度に属する取締役会決議による剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年5月11日	338,910	40.00

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	251	384 (1,420)	1,302	1,321	1,866
最低(円)	200	211 (1,154)	985	890	1,142

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2. 平成26年6月27日開催の第78回定時株主総会において、平成26年8月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株の割合で株式併合を行っております。第79期の株価については株式併合前の最高・最低株価を記載し、()内に株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,337	1,577	1,866	1,852	1,747	1,681
最低(円)	1,240	1,291	1,487	1,681	1,418	1,411

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性10名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	-	苅谷 嵩夫	昭和19年5月19日生	昭和43年4月 平成9年6月 平成13年6月 平成18年6月 平成19年7月 平成27年6月 平成29年6月	当社入社 当社取締役 常務取締役 代表取締役社長 千野測設設備(昆山)有限公司 董事長(現) 代表取締役社長執行役員 代表取締役会長(現)	(注)3	17,391
代表取締役 社長	社長執行役員 機器開発センター 長	豊田 三喜男	昭和32年4月11日生	昭和56年4月 平成24年6月 平成26年10月 平成27年6月 平成28年6月 平成29年6月	当社入社 当社取締役藤岡事業所長 取締役藤岡事業所長・機器開発 センター長 取締役常務執行役員藤岡事業所 長・機器開発センター長 取締役常務執行役員企業戦略本 部長・機器開発センター長 代表取締役社長執行役員・機器 開発センター長(現)	(注)3	3,437
取締役	専務執行役員 営業本部長・東日 本支店長	吉田 幸一	昭和29年9月20日生	昭和52年4月 平成18年6月 平成23年6月 平成24年6月 平成25年6月 平成27年6月 平成29年6月	当社入社 当社取締役西日本販売事業部事 業部長・大阪支店長 取締役営業本部副本部長・ソ リューション営業統括部長 常務取締役営業戦略統括部長・ 久喜事業所長 常務取締役久喜事業所長 取締役常務執行役員久喜事業所 長 取締役専務執行役員営業本部 長・東日本支店長(現)	(注)3	6,734
取締役	常務執行役員 海外事業統括部長	松本 正	昭和25年7月1日生	昭和48年4月 平成18年6月 平成22年4月 平成24年6月 平成25年6月 平成27年6月	当社入社 当社取締役装置事業部事業部長 取締役海外事業推進統括 常務取締役海外事業統括部長・ アセアン開発担当 常務取締役海外事業統括部長 取締役常務執行役員海外事業統 括部長(現)	(注)3	4,256

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	常務執行役員 久喜事業所長	清水 孝 雄	昭和28年9月28日生	昭和51年4月 当社入社 平成21年6月 当社取締役計測技術開発センター長 平成25年6月 常務取締役技術開発センター長・スマートソリューション開拓統括部長 平成26年9月 アーズ㈱代表取締役社長(現) 平成27年6月 取締役常務執行役員技術開発センター長 平成29年6月 取締役常務執行役員技術開発センター長・久喜事業所長 平成30年2月 取締役常務執行役員久喜事業所長(現) 平成30年5月 ㈱浅川レンズ製作所代表取締役社長(現)	(注)3	6,314
取締役		吉池 達 悦	昭和27年5月9日生	昭和50年3月 日置電機㈱入社 平成17年3月 同社代表取締役社長 平成25年1月 同社取締役会長 平成27年2月 同社取締役会長退任 平成27年6月 当社取締役(現) 平成28年6月 新光商事㈱取締役(現)	(注)3	—
取締役		生田 一 男	昭和21年9月4日生	平成3年7月 (社)日本計量機器工業連合会事務局長 平成10年5月 (社)日本計量機器工業連合会常務理事兼事務局長 平成20年5月 (社)日本計量機器工業連合会専務理事 平成26年5月 (一社)日本計量機器工業連合会顧問(現) 平成28年6月 当社取締役(現)	(注)3	2,000
常勤監査役		斉藤 卿 是	昭和22年2月5日生	昭和44年4月 当社入社 平成13年6月 当社取締役 平成19年6月 常務取締役 平成22年6月 専務取締役 平成26年6月 特別顧問 平成29年6月 常勤監査役(現)	(注)5	6,686
監査役		原沢 隆 三 郎	昭和26年1月30日生	昭和49年4月 ㈱三菱銀行入行 平成13年6月 ㈱東京三菱銀行執行役員 平成17年6月 同行常務執行役員 平成20年10月 同行専務取締役 平成21年6月 同行専務取締役退任 平成22年12月 コンシリアジャパン㈱設立同社代表取締役(現) 平成23年6月 丸の内キャピタル㈱代表取締役会長 当社監査役(現) 平成27年6月 瀧上工業㈱監査役(現)	(注)4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役		山下 和彦	昭和31年3月19日生	昭和54年4月 平成17年6月 平成19年6月 平成20年4月 平成23年6月 平成28年6月 平成29年6月 平成30年2月	(株)埼玉銀行入行 (株)りそな銀行執行役員 りそな決済サービス(株)専務取締役 りそなカード(株)代表取締役副社長 NTTデータソフィア(株)取締役副社長 リズム時計工業(株)監査役(現) 当社監査役(現) (株)オプトエレクトロニクス取締役(現)	(注)5	—
計							46,818

- (注) 1 取締役 吉池達悦、生田一男の両氏は「社外取締役」であります。
- 2 監査役 原沢隆三郎、山下和彦の両氏は「社外監査役」であります。
- 3 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 取締役及び監査役が所有する当社株式の数には、チノ役員持株会における持分を含んでおります。
- 7 当社では、執行役員制度を導入しております。現在の執行役員は10名(うち、取締役兼任は4名)です。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスの状況)

当社グループは、企業の社会的責任を充分認識し、健全で公正な企業倫理観を共有し、計測・制御・監視の特長ある技術で産業・社会に役立つ商品・サービスを提供することを企業経営の基本としております。

当社のコーポレート・ガバナンスは、この基本方針に基づき経営の組織体制を整え、効率的な企業運営を行うことを目的としております。現行の取締役会、監査役会は有効にその機能を発揮しているものと認識しておりますが、今後一層のガバナンス強化を図ってまいりたいと考えております。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、監査役会設置会社であります。当社は、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確に区分して各機能の強化・迅速化を図る目的で平成27年6月26日に執行役員制度を導入するとともに、平成28年6月29日以降社外取締役を2名体制とし、取締役会が担う経営の監督機能について一層の強化を図っております。

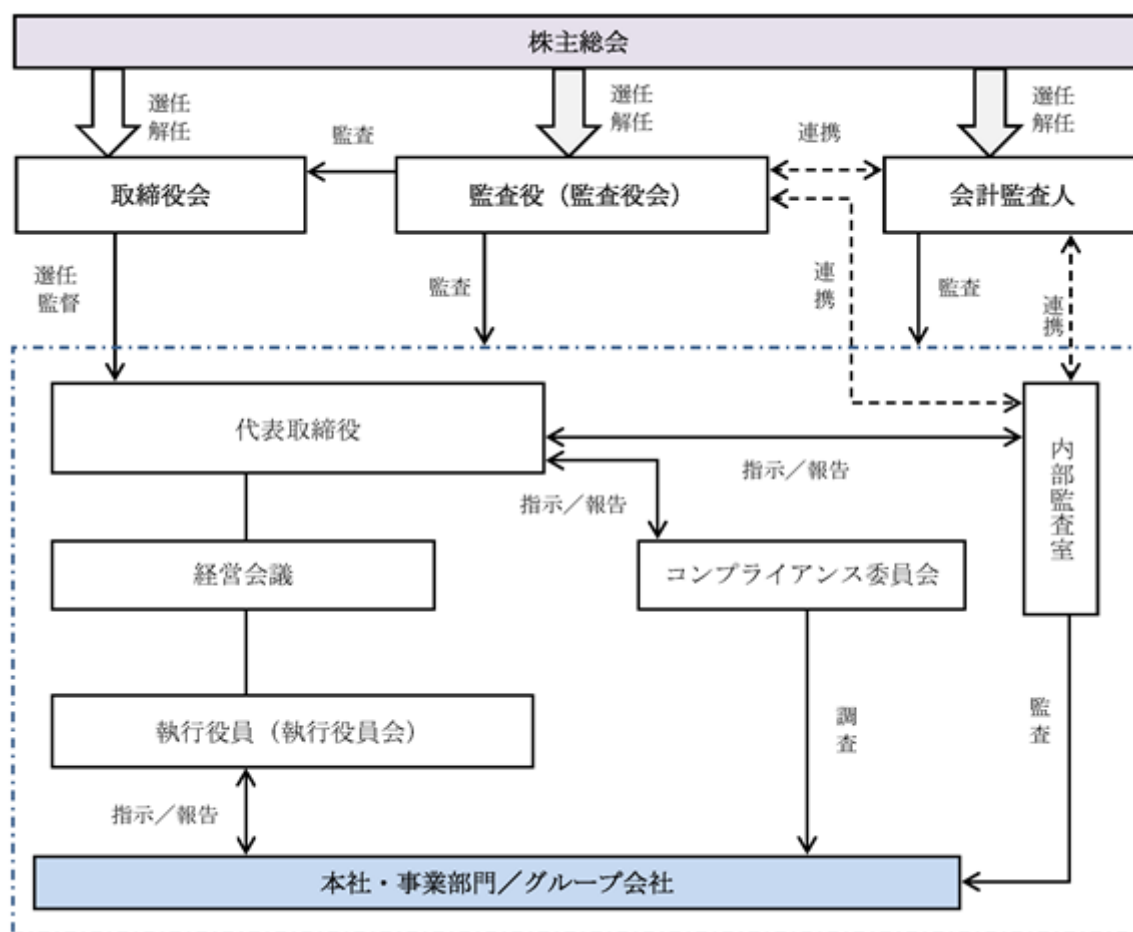
取締役会は、原則月1回開催され、経営方針等の重要事項に関する意思決定及び取締役による職務遂行の監督が行われております。取締役会を少人数の構成（平成30年6月26日現在7名）とすることにより、経営の意思決定の迅速化を図るとともに、取締役会の決定した事項を当該事業に精通した執行役員が実行することによって、経営の意思決定に基づく業務執行を迅速に行う体制をとっております。

なお、機動的な意思決定のために、業務執行方針の協議機関である経営会議を定期的で開催して経営上の重要事項を審議しております。

監査役会は、社内出身の常勤監査役1名と社外監査役2名で構成され、監査計画を策定し、各監査役が取締役会その他重要な会議に出席するほか、本社及び主要な事業所、重要な子会社等の業務や財務状態等の調査を行って、取締役を含めた経営の日常的活動を監視しております。

また、会計監査人やグループ各社の監査役と連絡会議を定期的で開催して連携を図り、情報収集と監視体制の強化に努めております。

会社の機関・内部統制図



□ 内部統制システムの整備の状況

会社法及び会社法施行規則に基づき、内部統制システム構築の基本方針に関し、下記のとおり決議しております。

当社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、当社グループの行動規範として、「チノービジネス行動基準」を定め、企業倫理の周知徹底、法令や定款違反行為を未然に防止する体制の整備を図るとともに、取締役に対しては、取締役会規程及び関連規程により取締役の相互監視体制を強化する。

当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制については、取締役会、経営会議及びその他の重要な会議における意思決定及び決議にかかる情報等について、法令、定款ならびにその他の社内規程に基づき、紙面又は記録媒体の状況に応じて適切に記録し、保存・管理する。

当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の業務執行に係るリスクならびに環境面・安全衛生面等、全社の想定されるリスクを抽出して評価、ウェイト付けを行い、リスク管理規程とリスク管理体制の整備を行う。また、不測の事態が発生した場合は社長を本部長とする対策本部を設置して危機管理にあたり、損害の拡大を防止してこれを最小限に止める体制を整える。

当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会が決定した基本方針に基づき、取締役会から権限移譲をされた範囲において迅速な意思決定を行うとともに経営に関する重要事項の事前審議を行うために経営会議を定期的開催する。

経営計画のマネジメントについては、年初に策定された年度計画及び中期経営計画に基づき、各業務執行ラインにおいて目標達成のため活動し、その進捗状況を取締役会において報告する。

組織規程、業務分掌規程及び職務権限規程等により、職務及び責任の所在ならびに執行手続きを明確化し意思決定の迅速化を図る。

当社の使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「チノー内部統制憲章」及び「チノービジネス行動基準」を定め、役職員に定期的なコンプライアンス研修を行って、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合する体制を敷く。なお、違反行為を発見した場合に内部通報制度により報告する仕組みを周知徹底する。

内部監査室が各部門の業務執行状況の監査を行い、監査結果を社長に報告するとともに、社内規程等の整備及び業務の適正な管理体制の維持ならびに向上のための助言や提案を行う。

当社及び子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制

子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当会社への報告に関する体制

グループ各社の取締役又は監査役に当社役員を派遣することにより当社が各社の業務の適正を監視する。

四半期に1回以上グループ経営会議を開催し、各社の業務執行状況について各社の社長から報告を受けるとともに、重要事項については必要に応じて関係書類の提出を求める。

子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の内部監査室がグループ各社のリスク管理状況を監査し、監査結果を当社及び子会社の社長に報告する。

当社リスクマネジメント部門がグループ各社と定期的に連絡をとり、グループ各社におけるリスクの把握・分析・対応策の検討を行い、予防に努める。

子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「関係会社管理規程」を整備し、子会社の取締役等の職務が効率的に行われる体制を整えるとともに、グループ経営会議を通じてグループ全体の協力の推進と業務の整合性の確保を図る。

子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループ全体の行動規範である「チノービジネス行動基準」の運用を徹底し、グループ各社の役員に定期的なコンプライアンス研修等を行う。なお、違反行為を発見した場合に内部通報制度により当社リスクマネジメント部門及び関係会社を管理する部門に報告される仕組みを整備する。

当社の内部監査室がグループ各社の業務執行状況の監査を行い、社内規程・内規等の整備や業務の適正な管理体制の維持、向上のための助言や提案を行う。

当社の監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人の設置が必要になった場合又はその求めが監査役からなされた場合、監査役と協議のうえ、専任又は内部監査室と兼務する使用人を配置する。なお、当該使用人が監査役を補助すべき業務を行う際は、監査役の指揮命令下に置く。

当社の監査役の職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人が、監査役の指示に従って行った報告等により不利益を被ることを禁止する。なお、当該使用人の人事考課等については監査役会の同意を得たうえで決定する。

当社および子会社の取締役及び使用人が当社の監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制

当社の取締役及び監査役補助者を含む使用人は、法定事項その他当社グループに重大な影響を及ぼす恐れのある事項又は重要な会議で決定された事項もしくはコンプライアンス・リスクに関する事項等を遅滞なく当社の監査役に報告する。

グループ各社の取締役及び監査役補助者を含む使用人が、当社の取締役及び監査役補助者を含む使用人に法定事項その他当社グループに重大な影響を及ぼす恐れのある事項又は重要な会議で決定された事項もしくはコンプライアンス・リスクに関する事項等を報告した場合、当社の取締役及び監査役補助者を含む使用人は当該事項を遅滞なく監査役に報告する。

前各号の報告・情報提供としての主なものは、次のとおりとする。

- ・ 内部統制システムに関わる部分の活動状況
- ・ 子会社等の監査役及び内部監査室の活動状況
- ・ 重要な会計方針、会計基準及びその変更
- ・ 業績及び業績見通しの発表内容、重要開示書類の内容
- ・ 内部通報制度の運用及び通報内容
- ・ 監査役から要求された会議議事録等の回付の義務付け

当社の監査役に報告をした者が報告したことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制

当社グループの取締役及び監査役補助者を含む使用人が当社監査役に報告を行った場合、当該報告をしたことによって不利な取り扱いをしない。

当社の監査役職務の遂行について生ずる費用の前払い又は償還その他の当該職務の執行について発生する費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行に関して生ずる費用について前払い又は事後償還を請求したときは、当該職務の執行又は請求に係る費用が当該監査役職務に必要ないと判断される場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

その他当社の監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、取締役会、その他重要な会議に出席するほか、本社及び主要な事業所、重要な子会社等の業務や財務状況等の調査を行い、また、会計監査人、内部監査人、グループ各社の監査人との連絡会議を定期開催してそれぞれ監査内容について説明を受けるとともに情報交換を行うなど連携を図る。

内部監査及び監査役監査の状況

社長直轄の独立した業務監査部門として内部監査室（監査人2名）が、各部門の業務執行状況の監査を行い、監査結果を報告するとともに、業務の適正な管理体制の維持、向上のため助言や提案を行っております。

監査役は、取締役会、その他重要な会議等への出席、各事業所への往査等を通じた経営状況の把握、取締役の職務遂行について主に適法性の観点から監査を行っております。また、内部監査部門は、会計監査人と必要に応じて情報、意見の交換を行うなど連携を深め、監査の実効性と効率性の向上を図っております。

社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役を2名、社外監査役を2名選任しております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、東京証券取引所の独立役員としての独立性基準等を参考にして、当社と特段の人的・経済的な関係がなく、かつ高い見識と豊富な経験に基づき当社の経営をモニタリングできる人物を社外取締役及び社外監査役として選任しております。社外役員に対しては、当社との具体的な取引関係の有無を調査するなど、独立性を保持するために厳正かつ公正不偏の態度を常に要求するとともに、独立性の適格性を取締役会の承認事項としております。この社外取締役及び社外監査役は、取締役会の透明性の維持向上と適切な意思決定等ガバナンスの強化に貢献できるものと考えております。

社外取締役の吉池達悦氏は、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社のコーポレート・ガバナンスの強化に反映いただけるものと判断し、選任しております。同氏と当社との人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役の生田一男氏は、わが国の計量計測機器産業の発展と計量機器の高度化に尽力されたその経験と高い見識を当社の経営に反映していただけるものと判断し、選任しております。同氏は当社株式を2,000株保有しておりますが、同氏と当社との間にそれ以外の利害関係はありません。

社外監査役の原沢隆三郎氏は、金融機関における長年の経験と財務等に関する豊富な知見を有しており、専門的見地から監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。同氏と当社との人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役の山下和彦氏は、金融機関における長年の経験と財務等に関する豊富な知見を有しており、専門的見地から監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。同氏と当社との人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役全員について、東京証券取引所が定める独立役員として届け出ております。

役員報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	171,177	115,053	-	18,538	37,586	7
監査役 (社外監査役を除く。)	15,120	14,046	-	-	1,074	2
社外役員	25,334	22,872	-	2,462	-	5

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

八 役員の報酬等の額の決定に関する方針

株主総会決議による報酬限度額

取締役分	年額	168,000千円以内（平成24年6月28日）
監査役分	年額	30,000千円以内（平成24年6月28日）

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	26銘柄
貸借対照表計上額の合計額	2,002,270千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	480,000	335,856	円滑な取引関係維持のため
(株)共和電業	711,000	332,037	業務協力関係維持のため
(株)ニッカトー	574,100	249,733	円滑な取引関係維持のため
エスベック(株)	100,000	138,600	円滑な取引関係維持のため
岩崎電気(株)	483,000	82,593	業務協力関係維持のため
英和(株)	65,000	58,760	円滑な取引関係維持のため
東亜ディーケーケー(株)	100,000	56,700	円滑な取引関係維持のため
(株)山形銀行	100,000	48,500	円滑な取引関係維持のため
(株)りそなホールディングス	44,900	26,845	円滑な取引関係維持のため
(株)オーバル	50,000	13,250	業務協力関係維持のため
(株)不二越	15,000	8,550	円滑な取引関係維持のため
アズビル(株)	2,000	7,480	情報収集のため
中外炉工業(株)	31,000	6,727	円滑な取引関係維持のため
(株)堀場製作所	1,000	5,970	情報収集のため
日置電機(株)	2,000	4,684	情報収集のため
(株)リョーサン	1,000	3,350	情報収集のため
オブテックス(株)	1,000	3,035	情報収集のため
横河電機(株)	1,000	1,752	情報収集のため
長野計器(株)	2,000	1,434	情報収集のため
(株)小野測器	1,000	792	情報収集のため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ニッカトー	574,100	570,655	円滑な取引関係維持のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	480,000	334,560	円滑な取引関係維持のため
(株)共和電業	711,000	298,620	業務協力関係維持のため
エスベック(株)	100,000	254,000	円滑な取引関係維持のため
東亜ディーケーケー(株)	100,000	137,500	円滑な取引関係維持のため
岩崎電気(株)	48,300	79,356	業務協力関係維持のため
英和(株)	65,000	61,880	円滑な取引関係維持のため
(株)山形銀行	20,000	47,080	円滑な取引関係維持のため
(株)りそなホールディングス	44,900	25,233	円滑な取引関係維持のため
(株)オーバル	50,000	15,300	業務協力関係維持のため
(株)不二越	15,000	9,690	円滑な取引関係維持のため
中外炉工業(株)	3,100	9,132	円滑な取引関係維持のため
(株)堀場製作所	1,000	8,240	情報収集のため
日置電機(株)	2,000	6,740	情報収集のため
アズビル(株)	1,000	4,955	情報収集のため
オブテックス(株)	1,000	2,811	情報収集のため
長野計器(株)	2,000	2,420	情報収集のため
横河電機(株)	1,000	2,198	情報収集のため
東京計器(株)	1,000	1,129	情報収集のため
(株)小野測器	1,000	854	情報収集のため

八 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査について監査法人大手門会計事務所と監査契約を締結し、会計監査を受けております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はありません。

a 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数については、以下のとおりです。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人
指定社員 業務執行社員	武川 博一	監査法人 大手門会計事務所
指定社員 業務執行社員	中村 尋人	
指定社員 業務執行社員	向井 真悟	

(注) 監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

b 監査業務に係る補助者の構成
公認会計士 5名

社外取締役及び社外監査役の責任免除

当社は、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。ただし、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額とする旨を定款で定めております。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等、会社法第459条第1項各号に定める事項について、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定めることができる旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等の決定を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	17,000	-	17,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	17,000	-	17,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人大手門会計事務所により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、新会計基準等の情報入手等を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,843,936	4,855,401
受取手形及び売掛金	2, 3 6,454,266	2, 3 7,441,243
商品及び製品	1,326,886	1,041,743
仕掛品	1,929,796	2,181,271
原材料及び貯蔵品	1,901,051	1,962,416
繰延税金資産	321,257	378,725
その他	251,031	312,751
貸倒引当金	41,721	116,156
流動資産合計	15,986,506	18,057,396
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,309,041	7,293,634
減価償却累計額	4,618,985	4,778,005
建物及び構築物(純額)	2,690,056	2,515,628
機械装置及び運搬具	3,374,796	3,384,636
減価償却累計額	2,787,973	2,839,601
機械装置及び運搬具(純額)	586,822	545,035
土地	1,083,123	1,082,643
建設仮勘定	30,622	5,412
その他	4,677,192	4,599,964
減価償却累計額	4,410,452	4,282,142
その他(純額)	266,740	317,821
有形固定資産合計	4,657,364	4,466,542
無形固定資産		
のれん	85,982	55,668
その他	717,469	551,192
無形固定資産合計	803,451	606,861
投資その他の資産		
投資有価証券	1 1,523,909	1 2,206,878
繰延税金資産	460,379	291,443
その他	798,056	767,861
貸倒引当金	11	-
投資その他の資産合計	2,782,333	3,266,183
固定資産合計	8,243,150	8,339,586
資産合計	24,229,656	26,396,983

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 3,376,857	3 4,789,314
短期借入金	1,927,791	1,554,395
未払法人税等	200,104	392,599
賞与引当金	487,929	552,801
役員賞与引当金	31,395	45,037
その他	725,033	1,007,853
流動負債合計	6,749,110	8,342,001
固定負債		
長期借入金	1,073,814	740,919
繰延税金負債	15,121	71,056
役員退職慰労引当金	317,049	314,531
退職給付に係る負債	1,401,539	1,360,136
その他	216,433	208,006
固定負債合計	3,023,957	2,694,649
負債合計	9,773,068	11,036,651
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,292,027	4,292,027
資本剰余金	4,053,230	4,053,230
利益剰余金	6,627,546	6,717,042
自己株式	1,553,132	1,153,916
株主資本合計	13,419,672	13,908,384
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	190,456	524,447
為替換算調整勘定	19,607	44,652
退職給付に係る調整累計額	54,181	42,922
その他の包括利益累計額合計	155,883	526,177
非支配株主持分	881,032	925,770
純資産合計	14,456,587	15,360,332
負債純資産合計	24,229,656	26,396,983

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	18,569,986	20,745,022
売上原価	1 12,830,279	1 14,166,541
売上総利益	5,739,707	6,578,481
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	2,200,519	2,200,750
賞与引当金繰入額	196,051	216,559
役員賞与引当金繰入額	31,395	45,037
退職給付費用	135,651	122,042
役員退職慰労引当金繰入額	54,301	68,381
減価償却費	180,335	185,702
研究開発費	1 461,477	1 465,756
貸倒引当金繰入額	24,219	100,005
その他	1,889,502	1,870,944
販売費及び一般管理費合計	5,173,454	5,275,180
営業利益	566,253	1,303,300
営業外収益		
受取利息	15,756	13,071
受取配当金	36,862	39,936
売電収入	37,676	36,648
その他	58,202	65,751
営業外収益合計	148,497	155,408
営業外費用		
支払利息	15,234	10,693
金融関係手数料	9,987	10,648
為替差損	2,409	10,197
売電費用	28,475	25,573
その他	20,865	33,376
営業外費用合計	76,971	90,489
経常利益	637,779	1,368,219
特別利益		
投資有価証券売却益	11,415	6,106
固定資産売却益	2 590	2 26,577
特別利益合計	12,006	32,684
特別損失		
固定資産処分損	3 4,288	3 11,223
ゴルフ会員権評価損	-	14,660
その他	-	679
特別損失合計	4,288	26,563
税金等調整前当期純利益	645,497	1,374,340
法人税、住民税及び事業税	222,968	457,572
法人税等調整額	5,055	9,930
法人税等合計	228,024	467,503
当期純利益	417,473	906,836
非支配株主に帰属する当期純利益	43,959	74,025
親会社株主に帰属する当期純利益	373,513	832,810

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	417,473	906,836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	112,596	333,990
為替換算調整勘定	30,187	33,256
退職給付に係る調整額	15,035	11,258
その他の包括利益合計	1, 2 97,443	1, 2 378,505
包括利益	514,916	1,285,342
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	477,900	1,203,104
非支配株主に係る包括利益	37,015	82,237

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,292,027	4,053,230	6,602,636	1,470,578	13,477,316
当期変動額					
剰余金の配当			342,997		342,997
親会社株主に帰属する当期純利益			373,513		373,513
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動			5,606		5,606
自己株式の取得				82,553	82,553
自己株式の消却					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	24,909	82,553	57,643
当期末残高	4,292,027	4,053,230	6,627,546	1,553,132	13,419,672

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	77,860	42,852	69,216	51,496	895,977	14,424,790
当期変動額						
剰余金の配当						342,997
親会社株主に帰属する当期純利益						373,513
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						5,606
自己株式の取得						82,553
自己株式の消却						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	112,596	23,244	15,035	104,386	14,945	89,441
当期変動額合計	112,596	23,244	15,035	104,386	14,945	31,797
当期末残高	190,456	19,607	54,181	155,883	881,032	14,456,587

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,292,027	4,053,230	6,627,546	1,553,132	13,419,672
当期変動額					
剰余金の配当			297,710		297,710
親会社株主に帰属する当期純利益			832,810		832,810
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動			5,948		5,948
自己株式の取得				40,440	40,440
自己株式の消却			439,656	439,656	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	89,496	399,215	488,711
当期末残高	4,292,027	4,053,230	6,717,042	1,153,916	13,908,384

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	190,456	19,607	54,181	155,883	881,032	14,456,587
当期変動額						
剰余金の配当						297,710
親会社株主に帰属する当期純利益						832,810
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						5,948
自己株式の取得						40,440
自己株式の消却						-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	333,990	25,044	11,258	370,294	44,738	415,032
当期変動額合計	333,990	25,044	11,258	370,294	44,738	903,744
当期末残高	524,447	44,652	42,922	526,177	925,770	15,360,332

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	645,497	1,374,340
減価償却費	868,102	810,159
のれん償却額	30,314	30,314
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,563	74,423
賞与引当金の増減額(は減少)	2,165	64,872
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	78,981	25,110
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	57,469	2,518
受取利息及び受取配当金	52,618	53,007
支払利息	15,234	10,693
売上債権の増減額(は増加)	429,659	759,046
たな卸資産の増減額(は増加)	44,079	22,241
仕入債務の増減額(は減少)	132,044	1,339,673
投資有価証券売却損益(は益)	-	6,058
未払消費税等の増減額(は減少)	70,170	76,793
その他	96,836	117,996
小計	914,299	3,031,284
利息及び配当金の受取額	52,146	53,562
利息の支払額	15,234	10,693
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	111,038	259,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	840,173	2,814,377
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	100,000	100,000
有価証券の取得による支出	-	100,000
有形固定資産の取得による支出	346,095	391,381
無形固定資産の取得による支出	110,202	97,208
投資有価証券の取得による支出	99,040	203,239
投資有価証券の売却による収入	89,859	9,035
貸付けによる支出	6,040	7,130
貸付金の回収による収入	111,587	9,944
保険積立金の積立による支出	65,580	68,025
保険積立金の払戻による収入	33,555	76,235
その他	47,907	57,398
投資活動によるキャッシュ・フロー	244,049	729,169
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	102,437	322,475
長期借入れによる収入	600,000	-
長期借入金の返済による支出	367,896	382,896
自己株式の取得による支出	82,553	40,440
配当金の支払額	342,174	298,339
非支配株主への配当金の支払額	50,967	36,504
財務活動によるキャッシュ・フロー	141,153	1,080,654
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,028	6,911
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	439,942	1,011,465
現金及び現金同等物の期首残高	3,403,994	3,843,936
現金及び現金同等物の期末残高	3,843,936	4,855,401

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 11社

連結子会社の名称

株式会社チノソフテックス

三基計装株式会社

株式会社浅川レンズ製作所

アーズ株式会社

アドバンス理工株式会社

CHINO Works America Inc.

上海大華 - 千野儀表有限公司

千野測控設備(昆山)有限公司

韓国チノ株式会社

CHINO Corporation India Private Limited

CHINO Corporation (Thailand)Limited

(2) 非連結子会社の数

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の関連会社数

該当事項はありません。

(3) 持分法非適用会社について持分法を適用しない理由

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちCHINO Works America Inc.、上海大華 - 千野儀表有限公司、千野測控設備(昆山)有限公司、韓国チノ株式会社及びCHINO Corporation (Thailand)Limitedの決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、連結子会社の同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

総平均法による原価法を採用しております。

ロ たな卸資産

主として総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産

主として定率法を採用しております。

(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	7～50年
機械装置及び運搬具	4～7年

ロ 無形固定資産

定額法を採用しております。

ハ 長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

当社及び国内連結子会社は従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

ニ 役員退職慰労引当金

当社及び主要な国内連結子会社は役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法によりそれぞれ発生の日付から費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債、ならびに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、10年以内の均等償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1)概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取り扱いを追加することとされております。

(2)適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3)当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	58千円	-千円

2 売上債権遡及義務

受取手形の一部を、債権流動化の目的で譲渡しております。その内、当社に遡及義務の及ぶ金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	241,076千円	340,952千円

3 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が当連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-千円	58,171千円
支払手形	-	178,831

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
	863,431千円	963,405千円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
機械装置及び運搬具	452千円	257千円
工具、器具及び備品	137	2,714
土地	-	23,604
計	590	26,577

3 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
建物及び構築物	3,035千円	7,812千円
機械装置及び運搬具	278	1,526
工具、器具及び備品	973	1,885
計	4,288	11,223

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	204,048千円	489,367千円
組替調整額	11,415	6,106
計	192,633	483,260
為替換算調整勘定：		
当期発生額	30,187	33,256
組替調整額	-	-
計	30,187	33,256
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	4,773	5,465
組替調整額	26,532	21,758
計	21,758	16,293
税効果調整前合計	184,203	532,810
税効果額	86,760	154,304
その他の包括利益合計	97,443	378,505

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	192,633千円	483,260千円
税効果額	80,036	149,269
税効果調整後	112,596	333,990
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	30,187	33,256
税効果額	-	-
税効果調整後	30,187	33,256
退職給付に係る調整額		
税効果調整前	21,758	16,293
税効果額	6,723	5,034
税効果調整後	15,035	11,258
その他の包括利益合計		
税効果調整前	184,203	532,810
税効果額	86,760	154,304
税効果調整後	97,443	378,505

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	9,560,116	-	-	9,560,116
合計	9,560,116	-	-	9,560,116
自己株式				
普通株式	985,188	68,923	-	1,054,111
合計	985,188	68,923	-	1,054,111

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく買取りによる増加	67,900株
単元未満株式の買取りによる増加	1,023株

2. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	342,997	40.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	297,710	利益剰余金	35.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	9,560,116	-	300,000	9,260,116
合計	9,560,116	-	300,000	9,260,116
自己株式				
普通株式	1,054,111	33,249	300,000	787,360
合計	1,054,111	33,249	300,000	787,360

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく買取りによる増加	32,100株
単元未満株式の買取りによる増加	1,149株
自己株式の消却による減少	300,000株

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	297,710	35.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月11日 取締役会	普通株式	338,910	利益剰余金	40.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
現金及び預金勘定	3,843,936千円	4,855,401千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,843,936	4,855,401

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒される場合には、原則として為替予約等を利用してヘッジをしております。有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。また、その一部には、材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒される場合には、恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達及び営業取引に係る資金調達を目的としたものであります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、受取手形及び売掛金に係る顧客のリスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手形債権の流動化により、常に所要額を維持できる体制をとると共に、手元流動性を連結売上高の概ね2ヵ月分程度維持することにより、流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
(1) 現金及び預金	3,843,936	3,843,936	-
(2) 受取手形及び売掛金	6,454,266	6,454,266	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	1,393,763	1,393,763	-
資産計	11,691,966	11,691,966	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,376,857	3,376,857	-
(2) 短期借入金	1,544,895	1,544,895	-
(3) 長期借入金	1,456,710	1,431,216	25,493
負債計	6,378,462	6,352,969	25,493

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
(1) 現金及び預金	4,855,401	4,855,401	-
(2) 受取手形及び売掛金	7,441,243	7,441,243	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	2,076,798	2,076,798	-
資産計	14,373,444	14,373,444	-
(1) 支払手形及び買掛金	4,789,314	4,789,314	-
(2) 短期借入金	1,221,500	1,221,500	-
(3) 長期借入金	1,073,814	1,056,397	17,416
負債計	7,084,628	7,067,211	17,416

（注）1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、ならびに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格に基づき算定しており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（有価証券関係）」に記載しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、ならびに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

長期借入金の支払期日が1年以内になったことにより、短期借入金に計上されたものについては、本表では長期借入金として表示しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	129,973	129,915
時価のない債券	173	165

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,843,936	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,454,266	-	-	-
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	-	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	-	-	-	-
合計	10,298,203	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,855,401	-	-	-
受取手形及び売掛金	7,441,243	-	-	-
有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	-	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	-	191,978	-	-
合計	12,296,645	191,978	-	-

4. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,544,895	-	-	-	-	-
長期借入金	382,896	332,895	445,434	205,476	90,009	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,221,500	-	-	-	-	-
長期借入金	332,895	445,434	205,476	90,009	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,061,436	697,787	363,649
	小計	1,061,436	697,787	363,649
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	332,326	421,418	89,092
	債券	-	-	-
	小計	332,326	421,418	89,092
合計		1,393,763	1,119,206	274,557

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額130,146千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,804,335	1,023,997	780,337
	小計	1,804,335	1,023,997	780,337
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	80,485	93,690	13,204
	債券	191,978	201,294	9,316
	小計	272,463	294,984	22,521
合計		2,076,798	1,318,982	757,816

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額130,080千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	-	-	-
債券	201,978	11,415	-
合計	201,978	11,415	-

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	9,015	6,106	-
債券	-	-	-
合計	9,015	6,106	-

(デリバティブ取引関係)
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び主要な国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため積立型・非積立型の確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。当社は企業年金制度に対して退職給付信託制度を採用しており、国内連結子会社のうち3社は、退職給付制度の内枠として確定拠出制度である中小企業退職金共済制度に加入しております。

国内連結子会社は、いずれも簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

一部の海外連結子会社は、確定拠出型の年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,654,268千円	3,710,810千円
勤務費用	277,978	272,770
利息費用	37,638	38,221
数理計算上の差異の発生額	7,065	55,341
退職給付の支払額	252,009	102,235
退職給付債務の期末残高	3,710,810	3,864,225

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	2,349,525千円	2,507,242千円
期待運用収益	70,485	75,217
数理計算上の差異の発生額	2,291	25,010
事業主からの拠出額	251,952	250,857
退職給付の支払額	162,430	65,480
年金資産の期末残高	2,507,242	2,792,847

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,710,810千円	3,946,835千円
年金資産	2,507,242	2,792,847
非積立型制度の退職給付債務	1,203,568	1,153,987
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,203,568	1,153,987
退職給付に係る負債	1,203,568	1,153,987
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,203,568	1,153,987

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	277,978千円	272,770千円
利息費用	37,638	38,221
期待運用収益	70,485	75,217
数理計算上の差異の費用処理額	11,786	8,375
過去勤務費用の費用処理額	9,972	7,918
確定給付制度に係る退職給付費用	266,890	252,067

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	9,972千円	7,918千円
数理計算上の差異	11,786	8,375
合 計	21,758	16,293

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	38,437千円	30,519千円
未認識数理計算上の差異	40,655	48,071
合 計	79,092	17,551

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	17%	16%
株式	16	17
現金及び預金	21	20
その他	46	46
合 計	100	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度58%、当連結会計年度58%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
割引率	1.03%	1.03%
長期期待運用収益率	3.00%	3.00%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	197,537千円	197,971千円
退職給付費用	26,587	29,124
退職給付の支払額	13,033	7,828
制度への拠出額	13,120	13,120
退職給付に係る負債の期末残高	197,971	206,148

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	307,882千円	333,944千円
年金資産	119,245	137,900
非積立型制度の退職給付債務	9,334	10,054
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	197,971	206,148
退職給付に係る負債	197,971	206,148
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	197,971	206,148

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度26,587千円 当連結会計年度29,124千円

4. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度23,223千円、当連結会計年度19,022千円であります。

(ストック・オプション等関係)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	157,997千円	176,323千円
退職給付に係る負債	431,948	418,465
役員退職慰労引当金	98,272	97,575
未払事業税	41,923	24,819
たな卸資産評価損	85,233	81,132
繰越欠損金	55,630	44,604
その他	106,617	205,122
繰延税金資産小計	977,624	1,048,041
評価性引当額	90,635	108,129
繰延税金資産合計	886,988	939,912
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	36,688	36,688
その他有価証券評価差額金	83,784	233,054
その他	-	71,056
繰延税金負債合計	120,473	340,799
繰延税金資産の純額	766,515	599,112

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	321,257千円	378,725千円
固定資産 - 繰延税金資産	460,378	291,443
固定負債 - 繰延税金負債	15,121	71,056

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
住民税均等割	6.1	2.9
のれん償却額	1.5	0.7
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.1	1.3
法人税額の特別控除等	4.7	5.8
在外子会社留保利益	-	4.1
その他	0.6	0.1
税効果会計適用後の法人税の負担率	35.3	34.0

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社営業本部と生産本部ならびに関係会社からなる事業グループごとに、取り扱う製品・商品及びサービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは当該事業グループを基礎とした製品・商品、サービス別のセグメントから構成されており、「計測制御機器」、「計装システム」、「センサ」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品・商品及びサービスは次のとおりであります。

セグメントの名称	製品内容等
計測制御機器	記録計、調節計、民生機器
計装システム	性能・評価試験装置、制御・監視用パッケージシステム、デバイス・半導体試験装置、クリーンルーム、温度校正機器、各種計装システム
センサ	赤外線放射機器、熱画像計測装置、温度センサ、応用センサ

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、修理・サービス等を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	計測制御機器	計装システム	センサ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,139,909	6,425,842	4,402,532	17,968,283	601,703	18,569,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	7,139,909	6,425,842	4,402,532	17,968,283	601,703	18,569,986
セグメント利益	1,081,922	358,942	663,486	2,104,351	236,453	2,340,805
セグメント資産	8,375,857	4,331,513	3,165,347	15,872,717	620,758	16,493,476
その他の項目						
減価償却費	322,636	93,212	210,735	626,583	35,486	662,070
減損損失	-	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	209,111	35,545	125,936	370,592	17,594	388,188

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、修理・サービス等を含んでおり
ます。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	計測制御機器	計装システム	センサ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,275,258	8,168,684	4,508,205	19,952,147	792,874	20,745,022
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	7,275,258	8,168,684	4,508,205	19,952,147	792,874	20,745,022
セグメント利益	1,160,277	847,995	765,982	2,774,254	136,161	2,910,415
セグメント資産	8,183,303	5,327,818	3,119,276	16,630,398	569,186	17,199,584
その他の項目						
減価償却費	322,006	77,988	163,148	563,142	36,155	599,298
減損損失	-	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	161,079	63,763	99,359	324,203	18,242	342,445

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、修理・サービス等を含んでおり
ます。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	17,968,283	19,952,147
「その他」の区分の売上高	601,703	792,874
連結財務諸表の売上高	18,569,986	20,745,022

(単位:千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,104,351	2,774,254
「その他」の区分の利益	236,453	136,161
全社費用(注)	1,774,551	1,607,114
連結財務諸表の営業利益	566,253	1,303,300

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	15,872,717	16,630,398
「その他」の区分の資産	620,758	569,186
全社資産(注)	7,736,180	9,197,399
連結財務諸表の資産合計	24,229,656	26,396,983

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社建物等であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	626,583	563,142	35,486	36,155	206,031	210,861	868,102	810,159
減損損失	-	-	-	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	370,592	324,203	17,594	18,242	91,282	110,124	479,470	452,569

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社関連の設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

本邦	アジア	その他	合計
14,919,394	2,967,953	682,639	18,569,986

(注) 1 国内又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) アジア・・・・・・中国、韓国、台湾等

(2) その他・・・・・・米国、ドイツ、イタリア等

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結財務諸表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

本邦	アジア	その他	合計
16,608,872	3,502,892	633,258	20,745,022

(注) 1 国内又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) アジア・・・・・・中国、韓国、台湾等

(2) その他・・・・・・米国、ドイツ、イタリア等

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結財務諸表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	計測制御機器	計装システム	センサ	その他	合計
当期償却額	-	19,838	-	10,475	30,314
当期末残高	-	54,557	-	31,425	85,982

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	計測制御機器	計装システム	センサ	その他	合計
当期償却額	-	19,838	-	10,475	30,314
当期末残高	-	34,718	-	20,950	55,668

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,596円00銭	1株当たり純資産額	1,703円64銭
1株当たり当期純利益金額	43円62銭	1株当たり当期純利益金額	98円25銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	14,456,587	15,360,332
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	881,032	925,770
(うち非支配株主持分(千円))	(881,032)	(925,770)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	13,575,555	14,434,561
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	8,506	8,472

4. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	373,513	832,810
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	373,513	832,810
期中平均株式数(千株)	8,562	8,476

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,544,895	1,221,500	0.48	-
1年以内に返済予定の長期借入金	382,896	332,895	0.44	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,073,814	740,919	0.23	平成31年～ 平成33年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,001,605	2,295,314	-	-

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	445,434	205,476	90,009	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	3,803,704	9,046,229	13,708,093	20,745,022
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額()	26,882	342,791	649,836	1,374,340
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()	46,219	170,033	353,516	832,810
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	5.45	20.05	41.70	98.25

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	5.45	25.52	21.65	56.57

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,472,916	3,350,413
受取手形	3,923,308	3,122,841
売掛金	3,623,501	4,012,679
商品及び製品	1,040,998	686,917
仕掛品	1,684,071	1,866,560
原材料及び貯蔵品	1,441,219	1,568,510
前渡金	6,457	72,998
前払費用	146,221	130,068
繰延税金資産	255,963	286,236
短期貸付金	360,156	325,287
未収入金	162,114	205,225
その他	20,251	10,982
貸倒引当金	1,062	58,030
流動資産合計	12,136,119	13,686,691
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,461,875	2,309,207
構築物	96,488	81,545
機械及び装置	463,887	439,457
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	208,077	227,727
土地	913,782	913,782
建設仮勘定	285	-
有形固定資産合計	4,144,396	3,971,719
無形固定資産		
ソフトウェア	686,620	526,613
電話加入権	14,169	14,169
その他	2,855	1,035
無形固定資産合計	703,644	541,817
投資その他の資産		
投資有価証券	1,516,564	2,194,248
関係会社株式	1,189,607	1,189,607
出資金	701	70
関係会社出資金	258,237	258,237
長期貸付金	6,086	7,600
関係会社長期貸付金	53,000	53,000
長期前払費用	204,027	172,432
繰延税金資産	301,513	132,924
敷金及び保証金	77,990	77,591
保険積立金	301,300	300,511
貸倒引当金	48,051	40,998
投資その他の資産合計	3,860,976	4,345,224
固定資産合計	8,709,017	8,858,762
資産合計	20,845,136	22,545,453

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	4 1,695,586	4 2,371,489
買掛金	1,312,839	1,685,756
短期借入金	1,669,992	1,409,991
未払金	61,076	105,200
未払費用	227,652	252,666
未払法人税等	163,921	291,379
前受金	7,714	151,594
預り金	24,038	25,155
賞与引当金	430,173	485,831
役員賞与引当金	21,000	21,000
設備関係支払手形	4 114,235	4 29,636
その他	53,214	132,366
流動負債合計	5,781,444	6,962,067
固定負債		
長期借入金	937,526	667,535
退職給付引当金	1,124,475	1,088,930
役員退職慰労引当金	230,740	209,956
長期預り保証金	212,414	207,488
固定負債合計	2,505,156	2,173,910
負債合計	8,286,601	9,135,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,292,027	4,292,027
資本剰余金		
資本準備金	4,017,909	4,017,909
その他資本剰余金	54,349	54,349
資本剰余金合計	4,072,259	4,072,259
利益剰余金		
利益準備金	948,832	948,832
その他利益剰余金		
別途積立金	2,916,000	-
繰越利益剰余金	1,695,320	4,732,801
利益剰余金合計	5,560,153	5,681,633
自己株式	1,553,132	1,153,916
株主資本合計	12,371,308	12,892,004
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	187,227	517,471
評価・換算差額等合計	187,227	517,471
純資産合計	12,558,535	13,409,475
負債純資産合計	20,845,136	22,545,453

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	14,303,926	16,184,244
売上原価	10,099,609	11,243,735
売上総利益	4,204,317	4,940,509
販売費及び一般管理費	2,390,078	2,396,108
営業利益	296,238	979,450
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	198,881	175,517
貸倒引当金戻入額	11,603	7,052
売電収入	37,676	36,648
その他	57,116	58,342
営業外収益合計	305,277	277,560
営業外費用		
支払利息	9,639	8,311
金融関係手数料	9,987	10,648
為替差損	15,487	13,603
売電費用	28,475	25,573
その他	20,251	21,615
営業外費用合計	83,841	79,753
経常利益	517,674	1,177,257
特別利益		
固定資産売却益	3,479	3,168
投資有価証券売却益	10,654	6,106
特別利益合計	11,134	7,745
特別損失		
固定資産処分損	4,426	4,105
投資有価証券評価損	-	631
特別損失合計	4,260	11,171
税引前当期純利益	524,548	1,173,832
法人税、住民税及び事業税	153,497	324,333
法人税等調整額	5,313	9,347
法人税等合計	148,183	314,985
当期純利益	376,365	858,846

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	4,292,027	4,017,909	54,349	4,072,259	948,832	2,916,000	1,661,952	5,526,784
当期変動額								
剰余金の配当							342,997	342,997
別途積立金の取崩								
当期純利益							376,365	376,365
自己株式の取得								
自己株式の消却								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	33,368	33,368
当期末残高	4,292,027	4,017,909	54,349	4,072,259	948,832	2,916,000	1,695,320	5,560,153

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,470,578	12,420,493	75,748	75,748	12,496,241
当期変動額					
剰余金の配当		342,997			342,997
別途積立金の取崩					
当期純利益		376,365			376,365
自己株式の取得	82,553	82,553			82,553
自己株式の消却					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			111,479	111,479	111,479
当期変動額合計	82,553	49,185	111,479	111,479	62,294
当期末残高	1,553,132	12,371,308	187,227	187,227	12,558,535

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	4,292,027	4,017,909	54,349	4,072,259	948,832	2,916,000	1,695,320	5,560,153
当期変動額								
剰余金の配当							297,710	297,710
別途積立金の取崩						2,916,000	2,916,000	-
当期純利益							858,846	858,846
自己株式の取得								
自己株式の消却							439,656	439,656
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,916,000	3,037,480	121,480
当期末残高	4,292,027	4,017,909	54,349	4,072,259	948,832	-	4,732,801	5,681,633

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,553,132	12,371,308	187,227	187,227	12,558,535
当期変動額					
剰余金の配当		297,710			297,710
別途積立金の取崩		-			-
当期純利益		858,846			858,846
自己株式の取得	40,440	40,440			40,440
自己株式の消却	439,656	-			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			330,243	330,243	330,243
当期変動額合計	399,215	520,696	330,243	330,243	850,939
当期末残高	1,153,916	12,892,004	517,471	517,471	13,409,475

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定しております。)を採用しております。

時価のないもの

総平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品・製品・仕掛品

総平均法(一部個別法)による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 原材料

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(3) 貯蔵品

先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7～50年

機械及び装置 7年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

(3) 長期前払費用

定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法によりそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において「営業外収益」の「その他」に含めていた「売電収入」は、表示の明瞭性を高めるため、当事業年度より区分掲記することとしました。また、前事業年度において「営業外費用」の「その他」に含めていた「金融関係手数料」および「売電費用」は、表示の明瞭性を高めるため、当事業年度より区分掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた94,792千円は、「売電収入」37,676千円、「その他」57,116千円として組み替えております。また、「営業外費用」の「その他」に表示していた58,714千円は、「金融関係手数料」9,987千円、「売電費用」28,475千円、「その他」20,251千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	735,325千円	816,803千円
短期金銭債務	81,894	83,208
長期金銭債権	53,000	53,000

2 偶発債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
CHINO Corporation India Private Ltd.	13,365千円	16,627千円
アーズ株式会社	25,000	25,000

3 売上債権遡及義務

受取手形の一部を、債権流動化の目的で譲渡しております。そのうち、当社に遡及義務の及ぶ金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	241,076千円	340,952千円

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
支払手形	- 千円	148,086千円
設備関係支払手形	-	879

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引による取引高		
関係会社に対する売上高	855,182千円	929,565千円
関係会社からの仕入高	706,930	769,902
営業取引以外の取引による取引高	329,237	276,364

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度39%、当事業年度41%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度61%、当事業年度59%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給料手当及び賞与	1,544,511千円	1,521,175千円
役員賞与引当金繰入額	21,000	21,000
賞与引当金繰入額	182,247	200,978
退職給付費用	111,249	101,463
役員退職慰労引当金繰入額	44,209	50,116
減価償却費	159,023	165,793
研究開発費	447,958	447,506

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械及び装置	451千円	9千円
工具、器具及び備品	27	1,628
計	479	1,638

4 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	2,835千円	7,812千円
構築物	178	0
機械及び装置	278	1,149
工具、器具及び備品	966	1,578
計	4,260	10,539

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,189,607千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,189,607千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	139,412千円	155,090千円
退職給付引当金	344,796	333,212
役員退職慰労引当金	70,606	64,246
たな卸資産	66,001	58,464
投資有価証券評価損	22,496	22,689
関係会社株式評価損	44,057	44,057
貸倒引当金	15,176	30,302
その他	64,639	66,363
繰延税金資産小計	767,186	774,428
評価性引当額	90,754	88,649
繰延税金資産合計	676,431	685,779
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	36,688	36,688
その他有価証券評価差額金	82,265	229,930
その他	0	-
繰延税金負債合計	118,954	266,618
繰延税金資産の純額	557,477	419,160

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.0	0.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	9.3	3.5
住民税均等割	7.1	3.2
試験研究費等税額控除	4.6	5.3
評価性引当額の増加	0.7	0.2
その他	2.9	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.3	26.8

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	2,461,875	29,570	1,668	180,570	2,309,207	4,357,108
	構築物	96,488	2,200	0	17,142	81,545	300,673
	機械及び装置	463,887	97,001	882	120,548	439,457	2,359,647
	車両運搬具	0	—	—	0	0	9,560
	工具、器具及び備品	208,077	182,017	1,421	160,946	227,727	4,059,022
	土地	913,782	—	—	—	913,782	—
	建設仮勘定	285	—	285	—	—	—
	計	4,144,396	310,789	4,257	479,208	3,971,719	11,086,012
無形固定資産	ソフトウェア	686,620	98,470	—	258,477	526,613	—
	電話加入権	14,169	—	—	—	14,169	—
	その他	2,855	1,035	2,855	—	1,035	—
	計	703,644	99,505	2,855	258,477	541,817	—

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	藤岡事業所	受変電設備	17,560千円
〃	久喜事業所	建屋改装工事	7,110千円
構築物	藤岡事業所	ピオトーブ循環ポンプ設置	1,500千円
機械及び装置	山形事業所	センサ検査・調整装置	17,266千円
〃	久喜事業所	超高温域黒体炉	9,795千円
〃	藤岡事業所	サイリスタレギュレータ制御基板調整装置	7,591千円
〃	藤岡事業所	放射温度計設定表示器生産設備	5,775千円
〃	山形事業所	センサ生産設備	4,900千円
〃	久喜事業所	恒温恒湿器	3,683千円
工具、器具及び備品	全社	基幹システムサーバ更新	33,000千円
〃	本社	本社・会計サーバ更新	21,700千円
〃	山形事業所	高精度湿度発生槽	15,634千円
〃	藤岡事業所	サイリスタレギュレータ大容量化金型	10,040千円
〃	久喜事業所	放射温度計金型	9,113千円
〃	久喜事業所	光高温計成形部品金型	5,420千円
〃	久喜事業所	シース素線在庫・品質管理システム	4,630千円
無形固定資産	全社	基幹システム改善費	26,989千円
〃	藤岡事業所	グラフィックレコーダソフト設計	10,881千円
〃	久喜事業所	シース熱電対工程支援ソフト	5,179千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	49,113	56,968	7,052	99,028
賞与引当金	430,173	485,831	430,173	485,831
役員賞与引当金	21,000	21,000	21,000	21,000
役員退職慰労引当金	230,740	50,116	70,900	209,956

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.chino.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第81期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第81期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月29日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

事業年度 第82期 第1四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）	平成29年8月10日、
” 第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）	平成29年11月13日、
” 第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）	平成30年2月13日

関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成29年6月30日関東財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自平成29年3月1日 至平成29年3月31日）平成29年4月11日関東財務局長に提出。

報告期間（自平成29年4月1日 至平成29年4月30日）平成29年5月15日関東財務局長に提出。

報告期間（自平成29年5月1日 至平成29年5月31日）平成29年6月9日関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月26日

株式会社チノー

取締役会 御中

監査法人大手門会計事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 武川 博一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中村 尋人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 向井 真悟

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社チノーの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社チノー及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社チノーの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社チノーが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月26日

株式会社チノー

取締役会 御中

監査法人大手門会計事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	武川博一
指定社員 業務執行社員	公認会計士	中村尋人
指定社員 業務執行社員	公認会計士	向井真悟

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社チノーの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第82期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社チノーの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。